令和６年度 東京都立小平特別支援学校 学校経営報告

東京都立小平特別支援学校長　鈴木 愛

Ⅰ 今年度の取組目標と自己評価

【学校運営】

【重点目標1】併置校の強みを生かした学校運営の推進

（1） 学習指導要領に則った年間指導計画・個別指導計画を軸とした教育課程の改善をテーマに、3年目の研究に取り組んだ。2年目で作成した「学びの地図・小平スタンダード【算数・数学】」の具体的な検証授業を行い、研究会において「算数」「数学」の授業実践の報告を行った。

（2） 肢体不自由肢体教育部門と病弱教育部門が研究活動等において連携し、それぞれの強みを生かしながら、共有できる指導方法・内容、教材等の開発及び実践を進め、2月14日に公開研究会を行い、肢体不自由教育部門、病弱教育部門の併置校としての教育内容を充実させた。

（3） 計画的な図書購入により、授業で活用しやすい図書室や図書コーナーの環境整備を行うとともに、教員、外部専門員、PTAによる読み聞かせ会を定期的に実施した。PTAによる本の修理、整理等の活動も進み、校内の読書活動における保護者との連携も一層深まった。また、読書推進月間や「小平ミニ図書館」「小平ビブリオ」などの取組を通し、校内の読書活動推進の機運が一層高まった。

（4） 東京都教育委員会の研究指定を受け、特別支援教育の理解推進に向けた障害者スポーツを通じた交流の推進に取り組んだ。近隣の小平市立小平第十三小学校とのゲームやダンスを通じた交流活動、明治学院東村山高等学校とのボッチャを通じた交流活動に取り組み、地域における特別支援教育の一層の理解推進を図ることができた。

（5） 研究授業指導や授業改善のための研修等を活用し、専門性の高い肢体不自由教育・病弱教育を提供した。3名の有識者による研修等を活用し、専門性の高い肢体不自由教育・病弱教育を提供した。

① 元筑波大学教授、前筑波大学附属桐が丘特別支援学校校長、元文部科学省初等中等教育局特別支援教育調査官　下山直人先生

② 昭和大学大学院保健医療学研究科准教授　副島賢和先生

③ 元東京学芸大学教職大学院教職大学院特命教授　三室秀雄先生

（6） 児童・生徒の生活している環境や実態に応じて、効果的な ICT 機器の活用による授業展開、改善を行った。視線入力装置、ピエゾニューマティックセンサースイッチ等を児童・生徒の個々の実態に応じて活用し、教育の充実を図った。

（7） 病弱教育部門において、各病院との連絡会を計画的に実施し、児童・生徒のQOLを高め、訪問する病院との連携のさらなる強化を図った。病弱教育部門の児童・生徒及び教職員の増加に伴い、教育環境及び労働環境を改善するため、病院訪問部の職員室を武蔵分教室から本校へ移転した。これにより、病弱教育部門の教育環境、労働環境を改善することができた。また、病院訪問の児童・生徒の増加や変動について記録を蓄積することにより、小学部および高等部の最低学級数を増やすことができた。これをさらなる計画的な授業運営に向けた足掛かりとする。

◆ 数値目標「学びの地図・小平スタンダード【国語】【算数・数学】」の観点別学習評価のまとめ　**完成 A**

◆ 数値目標 肢体不自由教育部門・病弱教育部門合同の研究会実施　年間2回以上　**15回実施 AA**

オンライン等を活用した共同研修会の実施　年間10回以上　**10回実施 A**

◆ 数値目標 学校評価(保護者・教員)「育成を目指す資質・能力の三つの柱を明確にした個別指導計画の内容、評価、説明が充実した」　90%以上　**保護者98% 教職員93.7% A**

◆ 数値目標 学校評価「学校図書館の環境整備が進み、図書活動への興味・関心が高まった」　90%以上　**保護者91% 教職員90.6% A**

◆ 数値目標 近隣図書館との連携、教職員や保護者による「読み聞かせの会」実施

年間10回以上　　**57回実施 AA**

◆ 数値目標 学校評価（関係病院）「病院との連携が十分であった」（病弱教育部門）

90%以上　　**関係機関80% C**

◆ 数値目標 ICTを活用した①授業改善、②教材作成、③遠隔授業の実施

全教員が2回以上の実施　　**実施 A**

◆ 数値目標 全肢研、全病連、関肢研、関病連への研究発表

各１回以上　　**分科会発表２本　ポスター発表４本 A**

【学習指導】

【重点目標 2】社会に開かれた教育課程の実現に向けた教育活動の充実、指導力の向上

（1）　肢体不自由教育部門、病弱教育部門全学部ともに、年度初めに個別指導計画の観点別学習評価について確認を行った。また、保護者に対しては、3観点による評価の記載、評価について全校保護者会にて説明を行った。個別指導計画の目標設定、授業内容、手立てについての保護者の理解を促し、保護者による個別指導計画作成への参画意識を高めることにより、保護者評価が98%に向上した。

（2）　総合的な教育力を向上させるために肢体不自由教育部門、病弱教育部門合同で「小平スタンダード【国語】【算数・数学】」を改善・ブラッシュアップし、学習指導要領に則った深い学びにつながる授業づくりを進めた。

（3）　読み書きや計算など、特定の学習の習得に困難さを抱える児童・生徒に対し、学習習得状況や教育的ニーズを的確に把握し、学習方法の改善を図った。

（4）　教職員が授業者サポート会議を活用することにより、自己の授業の振り返りを丁寧に行い、授業改善を図るとともに、指導力の向上を目指すモチベーションの向上につながった。

（5）　学習アドバイザー、授業アドバイザー（個別学習・授業デザイン）を活用して、個に応じた指導の質が高められた。

（6）　指導教諭が全教員の授業観察を行った。また、校内において積極的に模範授業を行い、年間を通じて授業改善に尽力するとともに、他校への支援も積極的に行った。

（7）　自作教材や指導方法などの教材・教具及び資料の共有化を図り、授業内容の充実につながった。

（8）　「あいるーむ」を GIGA スクール構想の拠点とし、ICT機器を積極的に活用した授業実践を推進した。「あいるーむ通信」や学習グループだよりを通して、ICTを活用した授業実践について保護者へ情報発信をした。

◆ 数値目標 個別指導計画の作成と3観点による評価の記載　　全教員が前期終了まで　　**前後期とも実施 A**

◆ 数値目標 学習の習得状況の把握と指導方法の改善・検討

各学部、各課程で1ケース以上検討　　**9ケース A**

◆ 数値目標 授業者サポート会議への参加　　全教員が1回以上　　**97% A**

◆ 数値目標 授業アドバイザー（授業デザイン）による指導　　年間7回以上　　**15回実施 AA**

◆ 数値目標 指導教諭による全教員の授業観察と指導・情報の発信　　年間100回以上　　**143回 AA**

◆ 数値目標 学校評価（保護者）「ICT 機器を積極的に活用した授業が行われた」

80%以上　　**教職員91%　保護者84% A**

【重点目標3】専門性のある人材を活用した教育の充実

（1）　児童・生徒が安全・安心な学校生活を送るため、教職員の児童・生徒理解の充実を図り、根拠に基づいた予見・予測による指導力を高めるための研修を徹底した。

（2）　外部専門家（OT、PT、ST、心理、視機能）の有する知識・技能や経験を十分に活用し、児童・生徒の授業場面や生活場面における指導の状況を把握させたうえで指導・助言を受けることで、教職員の専門性を向上させた。

（3）　自立活動教員による教室巡回により、児童・生徒の学習時の姿勢や摂食指導の改善が図られた。

（4）　安全な摂食、医療的ケアの実施のために、外部医師、看護師等による指導、研修を校内で計画的かつ精力的に実施し、排痰補助装置、初期食シリンジ注入など新規の実施項目についても安全に実施することができた。

（5）　主任非常勤看護師１名、総合非常勤看護師3名が精力的に活動したことで、組織的な医療的ケア実施体制の充実を図ることができた。

（6）　学校介護職員、病弱教育支援員等の専門性向上を図るための研修を、計画的に実施した。

（7）　肢体不自由教育部門において、主任学校介護職員3名を組織的に活用し、学校介護職員と教員との協働体制の強化を図った。

（8）　児童・生徒への興味・関心の幅を広げるために、外部の社会貢献企業の活用や社会で活躍する卒業生の講演など、教育活動を積極的に展開した。今後は、保護者、地域への発信を積極的に行っていく。

◆ 数値目標　学校評価「専門性のある人材の活用が教育充実につながっている」
80%以上　**保護者93%　AA　教職員83.2%　A**

◆ 数値目標　摂食・医療的ケアに関する全校研修　年間５回以上　**１１回実施　AA**

◆ 数値目標　医療的ケアにおける事故　０件　**０件　A**

◆ 数値目標　学校介護職員対象研修会の実施　年間８回以上　**4回実施　C**

◆ 数値目標　主任学校介護職員連絡会の開催　年間８回以上　**１１回実施　AA**

【生活指導・進路指導】

【重点目標4】地域と連携した安全・防災教育の推進

（1）　総合防災訓練、宿泊防災訓練等を通して、学校危機管理マニュアル等の精度を高め、児童・生徒、教職員、保護者の防災意識の醸成を図ることができた。

（2）　業務継続計画（BCP）を取り入れた防災計画、感染症危機管理計画等をもとに、幅広い防災対策、感染症対策を徹底し、学びを止めることなく学校運営を継続した。

（3）　防災教育推進委員会等を活用し避難訓練を見学していただくとともに、意見をいただくことで、実際的な内容に改善しながら、避難訓練の精度を高めた。また、コロナ感染症の予算で購入した物品を確認して整理し直し、感染症対策の一層の充実を図った。

（4）　校内外の安全確保、非常災害時の緊急対応のため、小平消防署と連携した訓練等を実施し、地域との連携構築のため、東京障害者職業能力開発校などの地域機関関係者に本校の避難訓練に参加していただき、連携をさらに深めた。

（5）　校内出入り口の防犯面の対応を継続し、保護者理解を得ている。校内物品整理、廃棄物品の整理・回収を実施した。

◆ 数値目標　避難訓練、総合防災訓練の確実な実施と学校危機管理マニュアルの
視覚的なアプローチを充実させた見直しの実施　年度末までに改定　**計画通り改定　A**

◆ 数値目標　防災教育推進委員会の避難訓練視察と意見聴取　年間一回以上　**１月に実施　A**

◆ 数値目標　生活、消防等の関係機関と連携したセーフティ教室、
不審者対応訓練等の実施　年間３種以上　**３種実施 A**
地域合同防災訓練への生徒などの直接参加　生徒等の直接参加　**直接参加なし C**

◆ 数値目標　物品整理の計画的実施(一斉整理日の設定と随時整理)
全校整理日年３回以上　**長期休業３回実施　A**

【重点目標 5】個に応じたキャリア教育、心の教育の推進

（1）　よりよいキャリア発達を支援するという視点に立った進路指導を組織的に行い、卒業後の希望の進路先

100%の決定に結び付いた。

（2）　進路指導に関する情報を様々な媒体を活用して発信することで、保護者や地域関係者等の理解推進を図った。

（3）　職業教育及び進路指導の充実のために、個別の移行支援計画をそれぞれの進路先へ確実につなげた。

（4）　児童・生徒の人権を尊重した教育を実践するとともに、児童・生徒が自他の命を大切にする心を育む指導に取り組み、いじめのない、豊かな心をもった子供たちの育成に、教職員一同力を尽くした。

（5）　児童・生徒の指導の改善・充実のための支援会議をニーズに応じ、方法も工夫し、迅速に実施できた。

（6）　18歳成人に対応した主権者教育、消費者教育等の指導に取り組み、小平市選挙管理委員会の協力を得て、模擬選挙体験を実施した。社会人としての意識を高め、障害と向き合い、「未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に身に付ける」ための教育を推進した。

◆ 数値目標　学校評価「キャリア発達支援の視点に立った進路指導が実施されている」
85%　**保護者 86% A**

◆ 数値目標　進路指導後援会の実施回数　年間 1 回以上　**進路セミナー実施 A**

◆ 数値目標　進路関係諸機関との懇談会の開催　年間 10 回以上　**16回実施 AA**

◆ 数値目標　進路指導に関する動画「進路 tube」のホームページへの掲載
年間 10 回以上　**6 回掲載 B**

◆ 数値目標　校内におけるいじめ未解決件数　0 件　**0 件 A**

【特別活動・その他】

【重点目標 6】地域支援力の向上

（1）　副籍交流の充実のために、地域指定校との連絡を丁寧にとるとともに、保護者の理解と協力を促進し、状況に応じた交流活動により障害に対する理解促進を図った。

（2）　保護者参画の下、学校生活支援シートの活用を積極的に行い家庭、教育、医療、福祉等との連携を図った。

（3）　通学区域である 9 つの市の教育委員会や各地域の学校との連絡会、訪問等々様々な方法で情報共有を進め、積極的支援を促進した。

（4）　学習ボランティア「こだいらサポーター」の取組についてホームページを通じて広く周知した。今後は近隣の大学、高等学校との連携を深めていく。

（5）　本校への入学を予定している児童・生徒、保護者への学校公開の実施(全校規模は 2 回、個別対応は随時)、一般市民の教育活動の見学の促進や個別の相談へも随時、迅速に応じることにより学校及び障害者への理解啓発を行った。

（6）　学校教育活動や地域における様々な活動をあらゆる媒体(HP・マチコミメール・ドリームプロジェクト、校門前掲示板)を活用して適時・迅速に発信した。

（7）　豊かな学校生活と家庭生活を支援するPTA活動の参画による図書読み聞かせ、本の修理等「ハピこだブック」の活動が定着し、一層活発に実施された。地域の人形劇サークルとの活動の継続など地域との連携に向けた取り組みが充実した。

◆ 数値目標　通学区域である 9 つの市教育委員会、福祉事務所への訪問、情報共有
年間 9 回以上　**年間52回 AA**

◆ 数値目標　本校入学を予定している児童・生徒、保護者、関係施設への学校公開
年間 2 回以上　**年間 2 回実施 A**

◆ 数値目標　特別支援コーディネーターの学校等支援活動　年間 25 校(園)以上　**32校 AA**

◆ 数値目標　地域での生活を豊かにする「ドリームプロジェクト」発行
年間 10 号以上　**年間 14 号発行 AA**

◆ 数値目標 学校ホームページの更新　　年間 90 回以上　　**年間 81 回更新 C**

◆ 数値目標 放課後等デイサービス事業所との連絡会　　年間 1 回以上　　**マチコミメールを通じた連携 B**

【重点目標7】スポーツ教育の推進によるレガシーの構築

（1）　肢体不自由教育部門、病弱教育部門の併置校の強みを生かすとともに、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、ボッチャやハンドサッカー等、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身に付ける学習を推進した。

＊東京都障害者スポーツ大会参加

＊全国ボッチャ選抜甲子園大会参加

＊CAC カップ学生ボッチャ交流戦参加

＊ボッチャ CIAO カップ参加

＊ハンドサッカー大会参加

（2）　東京都教育委員会の「特別支援教育の理解促進に向けた障害者スポーツを通じた交流の推進」の研究指定を受け、近隣の学校との障害者スポーツを通じた交流を実施し、障害者理解の推進を図った。

（3）　社会貢献活動モデル事業実施校の実績をもとに、生徒が地域のごみ拾いなどの活動に取り組んだ。

（4）　関係機関と連携して都立学校活用推進モデル事業を実施し、地域における生涯スポーツ活動を推進した。

◆ 数値目標 障害者スポーツを活用した学校間交流、地域交流の実施　　年間 7 回以上　　**7 回実施 A**

◆ 数値目標 障害者スポーツを活用した肢体不自由教育部門、病弱教育部門の交流

年間 1 回以上　　**0 回 C**

【重点目標 8】魅力ある学校環境・職場環境の整備

（1）　廊下や教室の整理整頓、不要物品の計画的な廃棄を行った。掲示板の整備・活用等を組織的に実践した。

（2）　Teams、Zoom 等の有効活用による会議の実施を行い、紙媒体を減らすとともに、クリーンデスクの徹底により個人情報の安全管理の徹底を行った。

（3）　「おもてなしプロジェクト」として教育活動への協力者に感謝の意を伝えることを行い、子供たちの「心の教育」を充実させた。

（4）　人権研修の実施や自己点検等を活用し、教職員による体罰を決して行わない、行わせない環境を整え、言葉のかけ方、児童・生徒への関わり方について教職員同士で点検し合いながら組織的に対応することを心掛けた。

（5）　業務の効率化を組織的に図るとともに、「おたがいさま」の気持ちをもち、安全で健康的な働きやすい職場環境の整備に努めた。

◆ 数値目標 個人情報紛失事故　　0 件　　**0 件 A**

◆ 数値目標 体罰事故　　0 件　　**0 件 A**

◆ 数値目標　経営企画室との連携による校内物品整理の徹底

(再掲)全校整理日年間 3 回　　**長期休業 3 回実施 A**

◆ 数値目標 勤務時間外在校時間月45時間以上の教職員　　年間で 20%以内　　**15% AA**

※上記目標数値についての評価

AA：目標値を大きく超えた　　A：目標値に達した　　B：ほぼ達成した　　C：十分達成できなかった

D：ほとんど達成できなかった

Ⅱ 次年度の課題と対応（令和６年度 学校運営連絡協議会評価委員長の提言から）

今年度の成果と課題（令和６年度学校運営連絡協議会委員から）

今年度の評価は、概ね高い評価が得られた。教職員の日々の活動の成果であると捉えて良いと言える。学校評価を踏まえた成果と課題は以下のとおりである。

＜成果＞

（１） 初任者研修、年次研修など授業に対して大変丁寧に取り組んでいる。小平で学んだ先生方は、他校へ異動しても自信をもって授業ができると思う。

（２） ICT 機器に関する項目では、前年度比較で肯定的な評価が 12%あがった。

＜課題＞

（１） いじめに関する項目は、肯定的な評価が減少し、「わからない」が増加した。

（２） ホームページに関する項目は、保護者、教員ともに「分からない」が増加した。

（３） ライフ・ワーク・バランスの取れる職場環境の整備。

上記事項を踏まえ、次年度に重点的に取り組む事項として、学校評価・学校の重点目標の達成状況を勘案し、以下のとおり整理をした。取り組みを進めるに当たっては、中心となる部署の主幹教諭・主任教諭が職層に応じた役割を組織的に果たしていく。

１ 学校評価全般について

保護者・教職員の評価はともに良好であり、日々の教職員の努力が評価されている。また、今年度は全校児童・生徒の評価も実施し、楽しく学校生活を送っていることや読書活動が充実したという結果が得られた。

次年度に向けて、①ICT機器の活用、②ホームページの活用、③いじめ防止に関する取組と情報発信、④ライフ・ワーク・バランスの４点について、改善や検討が必要である。

２ 次年度に向けて

（１）更なる ICT 機器活用の充実

次年度の研究活動のテーマとなっていることもあり、今まで以上に研究、実践を深めていく。障害が重い児童・生徒の ICT 機器活用については難しいケースもあるが、将来の生きがいや進路にもつながる。ICT 機器活用についての情報発信の充実を図り、活用の実態や有効性について確実に伝わる工夫をお願いしたい。

（2）ホームページの活用方法、情報発信

閲覧数をあげるためではなく、学校のことを知ってもらうためにホームページでどのような内容をどのように発信していくかについて検討する。

（3）いじめ防止に関する取り組みについての工夫と情報発信

いじめに対する取り組みは、保護者には見えにくい。友達と一緒にいる時間が楽しいと思っている児童・生徒が多くいる。（児童・生徒の学校評価より）研修や道徳での取り組みのほか、日々の授業、教師や児童・生徒同士での日常的なやり取り等も含め、どのような情報をどのように発信していくのかについて考える必要がある。
また設問の文言についても検討する。

（4）ライフ・ワーク・バランスについて

管理職と教員が両輪となって取り組まないと進まない。「児童・生徒のために」ということと自分の働き方のバランスを考えることが必要である。学校として具体的な対策をもって組織的に取り組むとともに、個人としても意識をもって取り組む。